

助成対象事業成果報告書（概要版）

制度名	チャレンジド向け通信・放送役務提供・開発推進助成金
助成対象事業名	文化観光施設における聴覚障害者向けタブレットガイドサービス開発及び提供
助成対象事業者名	株式会社ビューティフルワズ
助成金の額	6, 637千円

【助成対象事業の全般について】

①	助成対象事業の概要	文化観光施設にて解説情報(字幕、図解、写真など)を表示するタブレット端末を聴覚障害者、外国人観光客、健常者に貸し出すユニバーサルデザインサービスである。本事業はユニバーサルデザインという特徴を活かし、観光サービス市場も内包させることで、市場の小さい聴覚障害者向けサービスを持続的な役務を提供することが可能なビジネスモデルであることに有益性がある。
②	助成対象事業の目標	<p>本事業の目的は聴覚障害に文化観光の楽しみを提供する補助サービスを開発し運用することにある。文化庁が2019年に障害者による文化芸術活動の推進に関する法律を施行する。</p> <p>この法律の3基本的施策において文化芸術の鑑賞の機会の拡大が明記されており、具体的には、文化芸術施設（劇場、音楽堂、美術館、映画館等の文化芸術活動のための施設）における文化芸術の作品等に関する音声、文字、手話等による説明の提供の促進である。本事業はこれからより需要が文化観光施設におけるバリアフリーサービスの拡充を目指しよ、きめ細かなニーズを実現していく。</p> <p>加えて、本事業の目標は聴覚障害者だけでなく、情報アクセスという視点から、外国人観光客や日本人健常者など、文化観光施設において観覧に情報が必要な人々全てを内包するユニバーサルサービス設計を目指している。</p>

【平成30年度実施部分について】

③	助成対象事業の実施内容	今年度は採択条件の1つとして提示された能楽堂以外のフィールドを2つ創出することに注力した。美術館と観光バスの2つのフィールドにて本サービスが実用化可能か、また有益性があるか検証した。結論から述べると、美術館と観光バスに機材を設置しサービスを試験運用し、市場としてのポテンシャルがあると判断した。
---	-------------	---

		美術館にフィールドを広げた理由は①聴覚障害者向けサービスが乏しいこと（サービス需要）、②能楽堂と同じターゲット層の利用が見込める（顧客層）2点である
④	助成対象事業の成果	<p>本事業の成果は大きく分けて2点ある。まず1点目に、能楽堂以外の新しい2つのフィールドを創出することにある。2点目に、そのフィールドにて商用化可能かサービスを運用し知見を集積することである。</p> <p>1点目のフィールドの創出であるが、本年度は採択条件に能楽堂以外の2つのフィールドを創出するという条件が付与された。そこで、弊社はニーズの調査も兼ねて、文化・芸術・観光という領域の中で美術館と観光バスの2つをフィールドを開拓することができた。</p> <p>2点目に、その2つのフィールドでの商用化に向けたノウハウや運用技術の蓄積である。本年度は先述した美術館と観光バスを選定した。</p> <p>美術館では音声ガイドが主流であり、聴覚障害者がそのサービスを利用することは難しい。ここを改善するため、弊社のタブレットガイドに美術館のコンテンツを開発し搭載し貸し出すサービスを実施した。このサービスの特徴は弊社が今まで能楽堂にて培ってきた機器の貸し出し、コンテンツ管理を応用することで、ほぼ無人の貸し出しが可能となった。</p> <p>次に、観光バスにおける観光地紹介サービスである。観光バスの座席にタブレットを取り付け、そのタブレットに情報を掲示するサービスであり、能楽堂での実績をそのまま応用した。</p> <p>バスにおいては観光ガイドとしての側面よりも、アナウンスが聞こえない聴覚障害者むけに緊急時の情報、停留所・乗り換え案内などの表示など、デジタルサイネージとしての需要が高いことがわかった</p> <p>以上の2つのフィールドでのサービス試験運用において、本事業の事業化の可能は非常に高く、また、波及性のあることがわかった。能楽堂だけでなく新しい市場を開拓し、文化・芸術・観光の領域におけるバリアフリーの拡充に貢献することができた。</p>
⑤	補足説明事項	